

ワークショップ「わたしたちの村を発展させよう！」

テーマ 国際協力

- ねらい
- ・開発途上国の地域の課題を知る
 - ・「発展」とは何かを考える
 - ・地域の人々の自立と国際協力のあり方について考える

概要 タンザニアの村の住民の立場に立って、「水道」「電気」「道路」の中から、村の「発展」のために優先すべきものを選ぶ。ワークシートを使って考えを整理し、意見交換を行う

対象 中学2年生以上（大人も可）

人数 10～60人

形態 前半はイスだけ、後半は5～7人ずつのグループでテーブルを囲む

時間 90～120分

ワークショップの流れ

1	5～10分	オリエンテーション、アイス・ブレイキング	
2	10～20分	タンザニアへの旅を疑似体験 ① スライドやビデオでタンザニアの様子を見る	スライド ビデオ
3	20～30分	タンザニアへの旅を疑似体験 ② ※フォト・ランゲージ（写真を使ったアクティビティ） 自分達が実際にタンザニアの地方都市を訪ねたという想定で、写真を見ながら、そこで出会った人についてイメージを膨らませる	写真カード
4	45～60分	ディスカッション タンザニアのある村の住民になったつもりで、「水道」「電気」「舗装道路」の中から、自分達の村の発展のために優先すべきものを選ぶ。各グループで話し合った後、その結果と理由を発表し、さらに全体で議論を深めて行く。	ワークシート
5	5～10分	ふりかえり	



写真カードの例

わたしたちの村を發展させよう！

11 タンザニアにある村があります。みなさんはこの村の住民です。村の村長は、村には不便なことがあるあり、困っている人も多いため、この村を發展させるために、水道、電気、道路の3つのうち、まず整備すべきものは何か、最初の3年間だけ、外国の援助団体から技術とお金の協力が得られます。ただし、協力してもらえぬのは、一つのプロジェクトだけ、10年後に村を發展させるためには、どうしたらよいでしょうか？

あなたは、この村の住民の一人です。他の村人の意見も聞きながら、10年後の村の発展とはどのような状況かを考え、そのために必要なプロジェクトは何かを話し合ひましょう！

<村の状況>

- ・農業に携わる人が多い。農作物を作って生活している。
- ・小さな子どもも牛を飼っている。
- ・電気はどの家にも通っていない。夜はランプで過ごす。
- ・村には水道はない。井戸が3ヶ所。井戸水は、飲み水としては安全とはいえない。
- ・半数以上の大人が携帯電話を持っている。
- ・道は塵土で出来ていて、雨期になるとひどくぬかるんで、ところどころ、車が通れなくなる。
- ・町まで32km。車で約2時間、歩くと8時間かかる。
- ・道路がアスファルト舗装されれば、町まで1時間でいけるようになる。
- ・村には、マイクロバスが2台ある。バイクを持っている人は数人だけ。



小学校の校長先生

都会では、誰もがパソコン、インターネットを使っている。これからは小学校でもIT教育が必要。でも、学校には、電気もパソコンもない。机のない教室もあり、子ども達は床に座って授業を受けている。まずは電気をこの村にも通して、勉強できる環境を整えたい。学校の近くに井戸があるので、水は一応、手に入る。

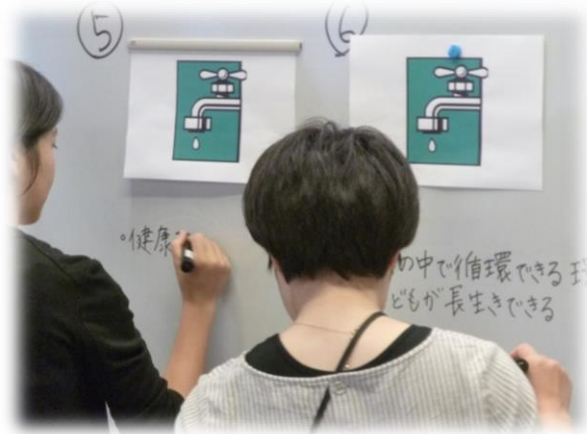


農家の人

今、ほしいモノは、オートバイ。道路が良くなれば、遠くの町まで楽に行けるようになる。町まで野菜を売りに行くこともできる。道ができて人が行き来することで、モノや情報が動き、村は徐々に發展していく。

ディスカッション用資料

ワークショップの様子



参加者の感想（教員）

- ・このワークショップはぜひ子ども達と一緒にやりたいと思った。私は「水道」を選んだが、「道路」を選んだグループもあり衝撃的でした。答えは1つではないということに、なるほどな〜と思いました。
- ・色々な視点で見ることが出来た。考え方も深まった。
- ・話し合いのなかで勉強になるところが多々あった。いい話し合いになりました。
- ・色々な方の考えを聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・自分が児童・生徒と同じように必死になって考えた。その中で自分だったらどうするか？と考えることがたのしかった。
- ・3つから選ぶというシンプルなワークだが、教材作りをするにあたって、すごく考えられていたことが伝わってきた。教材作りの難しさと同時に、わくわくした気持ちになった。
- ・「想像力」「発想力」「当事者になれる力」の必要性を実感できた。

必要な機材等

プロジェクター

スクリーン

スピーカー

延長コード（3 ッロ以上）

可動式のホワイト・ボード又は黒板